



※農業委員会だよりは  
こちらのQRコードから  
ご覧いただけます。

# 生きる力を育むために!



◀じゃが芋掘りをする園児たち

▶支柱を立てないで育てる昔ながらの地這いきゅうりは種がない



▶みどりの風こども園かなぎの濱谷伊利子園長(左)



子どもたちと野菜づくりをたのしむ中村暁子さん(右)

金木町の「みどりの風こども園かなぎ」では子どもたちが朝の体操をした後、自分たちが園庭で育てた野菜の収穫に行くのが恒例となっています。

『先生、僕の苦手なピーマンを食べることができたよ。種はりんごみたいな味。』ピーマンを生で食味してみた園児がうれしそうに保育士に伝えにきました。

同園の濱谷伊利子園長は、数年前から食育の一環として子どもたちに野菜づくりを体験させようと、プランターでやってみましたが、思うようにいかず試行錯誤していました。『こんなに広い園庭があるのだから、園庭を利用し畑ができないものか。』と考え、野菜づくりに詳しい人がいないかと周囲の人に聞いてまわりました。

ある時、知人から、中村暁子さんという女性を紹介してもらいました。

中村さんは平成24年度に「青年就農給付金事業」を活用し就農した女性の農業者でした。

濱谷園長は、中村さんに園の野菜づくりを手伝ってもらうことにしました。

中村さんは就農したスキルを生かし、砂地の園庭を化学肥料や農薬などは一切使用せずに土壌改良を重ね、野菜づくり3年目を迎えた今年は、様々な野菜をたくさん収穫することができるようになりました。

毎朝、子どもたちが畑に行くと収穫した野菜は、その日の給食に飛び入りで、サラダやみそ汁の具として提供されています。

収穫された野菜は給食の他にも、じゃが芋の食べ比べをしたり、ミニかぼちゃで人形を作ったりと、自分たちが育てた野菜は園児の身近な存在となっているようです。

同こども園は今年の10月に移転する予定です。

濱谷園長は、『移転先でも畑づくりを続け、子どもたちの生きる力を育てていきたい。』と優しい笑顔で語ってくれました。



# 佐々木市長大雨による被災農地を視察



8月22日、佐々木市長は、副市長、市議会議員、農業委員会会長ほか関係担当職員約20人と共に、8月3日・8月9日からの記録的な大雨で被害を受けた農地等の状況を確認するため、金木地区の農地5カ所を視察して周りました。

金木地区の農地は旧十川や岩木川からあふれた濁流により農地が冠水し、トマトや花きのハウスや大豆、水稻が大きな被害を受けました。

濁流に呑み込まれた、トマトや花き、大豆はすべて枯死してしまっている状況でした。

小山内清人農業委員会会長職務代理者は『稲は穂の近くの葉まで泥をかぶってしまうと、せっかく身が入った稲穂も不稔障害を引き起こす可能性がある。』と市長に説明をしました。

佐々木市長は、『今回被害を受けた農地の状況を見ると、想定外の大雨が降ったことでこのような被害を受けてしまった。想定外の災害に備えるとともに、早期に復旧できるよう国や県に補助金を申請し、早急に支援体制を整えて行きたい。』と述べました。



冠水し枯死したハウス内のトマト



枯死したハウス内のトルコキキョウ



枯死した転作の大豆

この度の豪雨災害により被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。  
一日も早く復旧されることを心よりお祈り申し上げます。

## 農地パトロール(利用状況調査)終了



当市では8月19日から9月2日まで、遊休農地や再生利用が困難な荒廃農地、違反転用がないか等について農地パトロール(利用状況調査)を実施しました。

調査は、農業委員、農地利用最適化推進委員、農林政策課職員、農業委員会各支所職員と当委員会事務局職員と共に行っています。

遊休農地は雑草の繁茂や病害虫の発生源となり、近隣の農地へ悪影響を及ぼすほか、集団的利用の阻害などで、農地の機能低下を招く原因となります。

今回調査した結果は、現在集計中です。今後、集計した調査結果を基に、所有者に対し意向調査や聞き取り調査を実施していく予定です。

所有者の方は、農地の有効利用に向けて、ご協力くださるようお願い申し上げます。

【問い合わせ先】農業委員会 (内線2884)

## 被災された農業者の方へ お願い



8月3日からの大雨により被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

現在、農作物への被害状況について調査を行っておりますが、被害状況に応じて復旧の取組への支援を行うことを検討しております。

しかし、被害状況や程度を判断するものがないと支援を受けられない可能性があるため、大雨による被害を受けた農業者の方々には、被害の概要や程度が分かるよう写真及びメモ等により記録を残しておいていただくようお願いいたします。

### 【記録の例】

#### ●大雨の被害を受けたことが分かる写真

例) 農地の浸水被害の場合

⇒ 農地に水が溜まっている写真

⇒ 農地に泥やゴミが残っている写真

#### ●被害後に行った取組を証明する写真

例) 樹園地の浸水被害の場合

⇒ 泥が付着した樹を洗浄中の写真

農地の状況を、**写真やメモで記録**をして、残しておいてくださるようご協力をお願いします。



105号

令和4

9/25



## 第29回青森県農業簿記講座の開催について

農業経営の改善を図るには、経営者自らが経営状態を知ることが重要です。複式簿記の記帳から得られる、あらゆるデータを基礎資料として、分析・診断・対策・実践することが求められます。

計画的な資金管理のもとで農業経営を行うためには、複式簿記による記帳と貸借対照表の作成が必要となります。

簿記講習を初めて受ける方はもちろん、以前受講した方がもっと詳しく学びたいという方もお気軽にご参加ください。

### 1 日程及びカリキュラム

日程	テーマ	学習内容
12/1(木)	簿記の仕組みと流れをつかもう	①簿記一巡の手続き (開始残高から精算表までの一巡)
12/5(月)	貸借対照表を作ろう	①固定資産、棚卸資産の評価方法 ②貸借対照表の作成方法
12/8(木)	自在に仕訳をしよう	①取引の意味と仕訳の要領 ②いろいろな取引と仕訳の仕方
12/14(水)	決算で経営成果を締めくくろう	①決算の意義と決算整理仕訳の要領 ②精算表の作成方法 ③営業上よくある取引と仕訳の仕方
12/15(木)	総合問題にトライしよう	①総合実践演習(力だめし)

2 時間 10:00~15:30

3 場所 五所川原市民学習情報センター大教室  
五所川原市字一ツ谷503-5 TEL:0173-38-5115

### 4 対象者

認定農業者、今後、認定農業者の申請を予定されている方、若手農業トップランナー塾生、地域リーダー(集落営農組織代表者・経理担当者)のいずれかに該当する方で、全日程に参加できる方(30名程度)

5 受講料 3,000円

教材販売価格:農業経営簿記I・II(セット価格2,000円)  
固定資産台帳(1冊1,000円)

### 6 持参する物

鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、大きめの電卓、教材(前年の教材も可)※昼食は各自ご用意ください。

### 7 申込方法

お近くの農業委員会に、受講料、教材費を添えてお申し込み下さい

【問い合わせ先】農業委員会(内線2883)  
農業委員会金木支所(内線3112)  
農業委員会市浦支所(内線4019)

## 危険 農作業の際はクマに注意しましょう!!



秋になると、クマが冬眠に向け木の実などを食べ、よく動き回っています。いざという時のために、十分注意して農作業に従事しましょう。

### クマの出没から身を守るために

- ◆作業する際は、ラジオなど音が出る物を携帯しましょう。
- ◆なるべく複数で作業しましょう。
- ◆クマの行動が活発になる早朝、夕方の作業時は気をつけましょう。
- ◆野菜や果実の廃棄残さなどは、クマを誘引するので処理しましょう。
- ◆ガソリンなどの揮発性物質はクマの誘引物となるので保管場所に注意しましょう。



## 第1回『全国高校生1億円プロジェクト』 当市で初開催



8月8日、第1回『全国高校生1億円プロジェクト』のお披露目イベントが五所川原市役所西側駐車場で初開催されました。

『全国高校生1億円プロジェクト』とは、全国の高校生が連携し、SBPというビジネスの手法を用いて地域の課題を解決して行くという取り組みのことで。

以前、当紙でご紹介した五所川原商業高等学校の生徒の皆さんもイベントに参加し、SDGsを意識して考案した食べられる『赤〜いRengoストロー』を1箱(2本入り)千円で販売しました。今回の販売で得られた収入は、ロシアの侵攻により困っているウクライナの人々を支援するための募金として送られるそうです。

この日は全国各地から集まった高校生たちが地域の特産品を使用した商品の販売や、伝統の染色技術を用いた浴衣を着てダンスを踊るなど、立佞武多の運行の最終日に、後夜祭のような形で場を盛り上げていました。

## STOP!! 農業事故

秋の農繁期を迎えるにあたり、農業機械等による事故を防止するため、安全のポイントを意識しながら『みんなで声かけ!安全確認』を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

### 農作業安全のポイント

- ①慣れた作業でも油断せず、安全を確認して作業しましょう。
- ②必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- ③自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- ④1人での作業は避け、やむを得ず1人で行う場合は、家族に作業場所と帰宅時間を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- ⑤家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。



- ☑ほ場の出入り口などでは段差、傾斜等に注意
- ☑点検・調整時は必ずエンジンを停止
- ☑シートベルトの着用

- ☑脚立は安定した場所に置く
- ☑身を乗り出したり、天板上で作業しない
- ☑上り下りの時は、重い物を持たない

※参考:青森県農作業安全推進協議会・青森県作成のチラシ



## ホコ天マルシェごしょがわら 開催のお知らせ

五所川原地域中心街活性化イベント実行委員会では、コロナ禍で停滞した地域経済の活性化のために、市産品の魅力発信・発掘をコンセプトとしたイベント「ホコ天マルシェごしょがわら2022」を開催します。

市特産品、グルメ、クラフトなどが大町通りに大集合！お楽しみコーナーや吹奏楽の演奏もありますので、ぜひお越しください。

○開催日：10月8日（土）  
（小雨決行）

○時間：10:00～15:00

○会場：立佞武多の館周辺

※旧ロータリーから立佞武多の館前を歩行者天国にします

### みなさまへのお願い

- ご来場の際は、感染拡大防止にご協力ください。
- 駐車場は、お近くの有料駐車場をご利用ください。

### 【問い合わせ先】

五所川原地域中心街活性化イベント実行委員会事務局  
（株）五所川原エフエム内 TEL:0173-34-3311

## 稲わら焼きはやめましょう!!

「青森県稲わらの有効利用の促進及び  
焼却防止に関する条例」

平成22年6月25日施行

### 各種申請の締切り日

#### ◎農地法第4条申請、第5条申請

・農地を農地以外のものとして使用する場合  
例：住宅・車庫・店舗建築

毎月25日締切り（25日が市役所閉庁日の場合は翌閉庁日）

#### ◎農地法第3条申請、農用地利用集積計画の同意、競売・公売買受適格証明願

・農地を農地として貸借・売買する場合、競売・公売の入札に参加する場合

毎月25日締切り（25日が市役所閉庁日の場合は翌閉庁日）

#### ◎あっせん申出

・あっせんにより農地を売買する場合

毎月5日締切り（5日が市役所閉庁日の場合は翌閉庁日）

【問い合わせ先】 農業委員会（内線2884、2885）

## 総会の開催予定

#### ○令和4年第11回総会

10月12日(水)10:00～市役所2階 B・C会議室

#### ○令和4年第12回総会

11月10日(木)15:00～市役所2階 B・C会議室

※法令により総会等の会議は公開されております。  
また、会議録は農業委員会事務局にて縦覧できます。

【問い合わせ先】 農業委員会（内線2881）

## 農地情報 令和4年9月現在

下記の農地について、受け手を探しています。価格等の条件は交渉できる場合もあります。農地の位置図もありますので興味のある方は、農業委員会までお問い合わせください。



※その他の情報はQRコードからご覧いただけます。

番号	整理番号	区分	農地所在		地目	面積(a)	圃場整備有無	利用状況	10a当たり希望価格
1	339	売渡又は貸付	金木町川倉	七夕野	田	42.18	無	非耕作	応相談
2	346	売渡又は貸付	長	富竹崎	田	110.21		水稲	応相談
3	345	貸付	神	山境山	田	116.05		自己保全	応相談
4	347	貸付	福	実開野	田	122.80		水稲	10,000
5	342	売渡又は貸付	広	田下り松	田	34.55		水稲	応相談

※農地を売りたい方・買いたい方、貸したい方・借りたい方はご相談ください。

【問い合わせ先】 農業委員会（内線2885）



## 農業者のみなさん、 農業者年金に加入しませんか？

- ◆農業者の方なら広く加入できる
- ◆少子高齢化に強い積立方式(確定拠出型の年金)
- ◆保険料(月額2万～6万7千円)は選べて、いつでも変更可能(条件に該当すれば、若い世代は1万円から加入可能)
- ◆終身年金で、80歳前に死亡した場合は一時金が遺族へ
- ◆保険料が全額社会保険料控除になるなど税制の優遇で節税に
- ◆認定農業者など意欲ある担い手には保険料の国庫補助あり

【問い合わせ先】 農業委員会（内線2882）

## 北五地区農業委員会協議会 からのお知らせ

8月に中泊町のバルナスで開催予定であった北五地区農業委員会大会が、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため中止となりました。

大会は中止となりましたが、農業委員として永年にわたり地域農業振興に尽くされ、功績が顕著な者として、板柳町農業委員の會津 丞 さんが農政功労農業委員表彰を受賞しました。

北五地区農業委員会協議会では、各委員会より提出されました要望書を例年通り県、国へと政策提案し、要望実現に向けて取り組んで参ります。

【問い合わせ先】 農業委員会（内線2881）